



## 小学生力士がはっけよい

5月5日、明智町の千畳敷公園春日野記念相撲場で恒例のわんぱく相撲大正村場所（日本大正村・明智町商工会青年部主催）が開催されました。

今回で19回目となる大会には、市内外から小学生力士110人が参加し白熱した取組が繰り広げられました。4・5・6年生の優勝者は、6月26日に関市で開催される岐阜県大会に出場します。

土俵上で白熱した取組を見せた小学生力士

## 気分は版画師 5色刷り

中山道広重美術館では、5色の重ね刷りができる版木を使った版画の体験が好評です。この模擬版木は美術館で所蔵する歌川広重の「木曾海道六拾九次之内」大井の浮世絵版画を題材にしたもので、大きさはB4判で大判錦絵とほぼ同じサイズです。インクのつけ方、こすり方などに気を付ければ、簡単にできるので、まさに「版画師」気分が味わえます。大人でも親子でも楽しめますので、ぜひ一度体験してみてください。

5色の本格的な版画刷りにチャレンジすることもたち



## 火災予防の知識を学ぶ

5月8日、恵那市民会館で市少年消防隊の入隊式が行われました。この少年消防隊は市内の小学校4年生以上で編成されており、本年度の隊員は新入隊員60人を含む136人。隊員への辞令交付が終わると、伊藤春正消防団長から新隊長の武並小学校6年生、安田力斗君に隊旗が手渡されました。

少年消防隊は、これから1年間、体験学習や部外研修、出初め式への参加など、火災予防の啓発に努めていきます。

力強く誓いの言葉を述べる副隊長の大蔵雅さん（大井第2小）



## 沿線にドウダンツツジを植樹

4月20日、明智町の野志駅周辺で明知鉄道協会連合会がドウダンツツジ400本の植樹作業を行いました。これは、昨年まで東美濃広域経済協議会が行っていた植樹作業を本年度から引き継いだもの。同会には27団体が所属しており、当日は雨の中約100人が参加し、斜面に1本ずつ丁寧に植樹しました。参加者は「このツツジが一斉に咲けば沿線は華やかになる。」と、いずれ咲く花を楽しみにしていました。

明知鉄道が通る下で作業をする参加者たち

## 江戸時代の姿そのままに

4月29日～5月8日の間、岩村町本通りにある石橋家住宅が特別公開されました。石橋家は江戸時代後期の建築で、岩村本通り伝統的建造物群保存地区の中でも典型的な町屋建築の様子をよく残しています。平成12年に所有者から岩村町（当時）に寄贈を受けたのを機に、平成16年度に保存修理を実施し、平成17年3月に完成しました。

特別公開は、地元有志ボランティアの協力を得て行なわれました。

江戸の歴史を感じる造りになっている石橋家



## レトロな町に武将行列

5月3日、明智町で明智光秀公をしのぶ光秀まつりが開催され、武将行列が日本大正村のレトロな町並みを練り歩きました。行列は馬に乗った武将や小学生の扮する武将や姫のほか鉄砲隊など約200人からなり、山車には日本大正村の司葉子村長が乗り、観光客などの歓迎に笑顔で応えました。また大正村のちょっとおんさい祭りも開催され、もち投げ、火縄銃の実演、愛・地球博のモリゾーとキッコロも登場し祭りを盛り上げました。

遊歩道の大正村の町並みを練り歩く少年武将ら





## 郷土食でひとやすみ

郷土食を恵那に訪れた人たちにアピールするため、市まちづくり市民協会などの団体が、5月15日にほお葉寿司と郷土食品まつりを開催しました。会場となった、恵那西銀座通り多目的防災広場には、市内各地域から10店が集まりほお葉寿司やからすみ、寒天料理など恵那の郷土食を販売。当日はJR東海主催のさわやかウォーキングも開催され、大勢の参加者が訪れ、ひとやすみ。恵那の食を味わいました。

会場には大勢のお客さんが集まりました



## 大船牧場の放牧開始

5月12日、上矢作町の大船牧場で和牛の放牧を開始しました。当日は23頭の和牛に血液検査やワクチン接種などの健康診断を行った後、安全を祈願するための祭事が行われました。

放牧は10月まで行われ、放牧期間中は順次牛の入れ替えが行われます。

大船牧場は標高1,100mの自然環境豊かな高原にあり、カモシカやサル姿も見られ、近くには県天然記念物の弁慶杉もあります。

牧場の中をのんびりと歩いています

## おいしいお米になーれ

5月17日、東野小学校の全児童による田植え体験が、学校近くの学校田で行われました。地元農家で学校田の管理をする千藤重明さんから植える本数や植える間隔と稲の性質などについて説明を受けた後、全校生徒92人が田に入り、200平方mを約40分ほどで植え終わりました。1年生はおっかなびっくりでなかなか田に入れませんでした。6年生をお手本にみんな手足を真っ黒にしながらも楽しく田植えができました。

手や足を真っ黒にして楽しく田植えを体験しました



## 料理の芸術品にうっとり

5月10日、恵那文化センターで恵那調理師会青年部による料理発表会が開催され、約20点の料理が見る人を魅了しました。恵那調理師会（会長林照男さん、会員約900人）の青年部は月1回研究会を開催し、県のコンクールでも入賞をするなどの実績を持つほど。作品は「むきもの」と呼ばれる野菜の細工彫りを施したものなどまさに料理の芸術品といった力作が並び、じっと見入ったり、写真を撮ったりする姿が見られました。

野菜の見事な細工彫りに熱心に見入る皆さん



## こと 箏の音色を響かせて

5月22日、中山道ひし屋資料館で箏・おさらい会が開かれました。演奏をしたのは「箏の会 荻野恵柯社中」の皆さんで、幼稚園から中学生までの8人と、指導者3人の計11人。「新高砂」や「相生の曲・六段調」の合奏など古曲の代表的なものや、「三段の調」など現代風にアレンジされた新曲、全6曲を披露。趣き深い空間に古典の音色が広がると、訪れた約50人の観客から温かい拍手が贈られました。

着物姿で箏を演奏。目でも観客を楽しませた



## モンゴル副大臣が訪問

モンゴル教育文化科学省のツムル・オチル副大臣が5月12日に、市役所を訪問され、市長、教育長と対談しました。モンゴルは旧上矢作町と深い交流があり、上矢作町内には、モンゴル遊牧民の移動式住居「ゲル」を使ったキャンプ施設「モンゴル村」があるほどです。対談では、可知市長の「上矢作町が築き上げた交流を恵那市が引き継ぎ、交流を進めたい」との言葉に、ツムル副大臣は感謝の意を示されました。

握手を交わすツムル副大臣と可知市長